

JWTAC J letter No.3

防水アーカイブズ資料館事務局だより No.3—20240203

① 第3回 会員のための「若き防水人のための防水基礎講座」

2024年2月15日（木）11時～12時（予定）

田中館長による全10回のオンライン講座。今回は第3回「防水から見たコンクリートの話」です。聴講希望の会員には招待メールを送りますので、2月13日までにJWTAC事務局まで、メールでお申し込みください。

*会社・団体会員の方は、登録された担当者を通じてお申し込みください。

*非会員で入会検討中の方は、事務局にご相談ください。

前回は「建築と防水下地の話」のテーマで、

○なぜ建築の知識が重要なのか、

○「コンクリートは乾いているようにみえても内部に水を隠し持って」いて、これが将来、防水層膨れの原因となる

○膨れは居住者に不快感を与えるだけでなく防水層劣化の原因となるので、防水不具合と理解すべき

などが、具体的にわかりやすく解説されました。

② 第8回日中韓防水シンポジウム

昨年末発行の機関誌「防水アーカイブズ通信」創刊号に、スペースの関係で掲載できなかった防水シンポの様子をお知らせします。

2023年10月20日～22日、韓国ソウル市・江南のリーバーサイドホテルで、第8回日中韓防水シンポジウムが開催され、日本から39人、中国50人、韓国110人、合計199人の防水関係者が参加し、各国の市場・現場・研究状況を報告した。発表・報告数は毎回増えていて、今回投稿された報告・研究論文数は32、シンポジウムではそのうち25題が発表された。特に今回注目されるのは、3国の参加者が「3か国の建設防水人は、エネルギー、環境、気候変動に関心を持ち、健康で安全な地球保全のためのカーボンニュートラルのための建設環境と文化づくりの実践者であり、持続可能な発展に向けた相互努力と協力のために、一緒に宣言する」として、5項目からなる「建設防水未来 VISION」宣言が発表されたことである。



開会式では、まず榮根代表会長が挨拶、ついで各国の論文発表が始まった。途中、呉委員長より、中国側代表（張可文委員長代行）および日本側代表（宮内博之委員長）が紹介された。宮内委員長は「韓中日防水シンポジウムを開催いただき感謝する。2009年に日本で第1回を開催し、田中先生が委員長を務めた。前回から4年経ち、シンポジウムの継続性が非常に重要である。AI-スマート、カーボンニュートラルなど、未来志向の防水技術は国を超えた技術の問題解決、先進的な技術への挑戦であり、アジアとして取り組むべきだと思われる。今後は3か国がアジアのリーダーとしてけん引していく。アジア・世界といった広い意味で共通事項を皆さんとこの2日間で探りたい」と挨拶した。

日本からの報告は、東京工業大学・田中享二名誉教授から「日本における最近の防水アーカイブズ活動」、建築研究所・宮内博之氏から「ドローンによる建築物調査のための環境整備と研究開発」、早稲田大学・興石直幸教授から「日本建築学会編『建築工事標準仕様書 JASS 8 防水工事』改定の概要」、千葉工業大学・石原沙織教授から「屋上防水の耐風性評価」、全国防水工事業協会・野口修氏から「登録基幹技能者制度の運用の概要 防水工事（メンブレン・シーリング）全防協編」、日本シーリング材工業会・福井宏氏から「日本におけるシーリング材の最新事情」を、同・岩崎功氏から「ガラスファサードに適用されるシリコン系シーリング材に関する最近の活動紹介」の7報が報告された。

また、本シンポジウムの名誉顧問として参加した田中享二JWTAC館長は、「日本における最近の防水アーカイブズ活動」として、以下の状況を報告した。

1. 防水アーカイブズで収集・保存する対象

(1)文書：防水層完成までに関与する文書、図書類であり、直接的に用いられた設計図や工事記録と、防水プロジェクトを側面から支援する各種書籍、規格、マニュアル類である。

(2)ひと：さしあたり「防水分野に20年以上携わった60歳以上のひと」を対象としている

る。これには防水プロジェクトに直接関わった設計者、工事管理者、施工者、材料製造者、間接的に関与した研究者、団体職員、各種図書文書類の担当者が該当する。

(3)もの：実際の防水材料、製品、副資材、施工道具等である。

2. 情報の収集

(1)文書：現在は関係者を中心に、個人保有の雑誌、図書、関連資料の調査、あるいは外部への働きかけにより収集活動を行っている。ただ最近は、関係者以外の方々からの情報提供も少しずつ増えてきている。

(2)ひと：2023年現在300名を超える人名の登録を完了している。

(3)もの：これについては保管スペースの関係で、大きなものは無理であり、小型のものを収集対象としている。

3. 「文書」、「ひと」、「もの」情報の受け入れ・保存判断について

原則、何でも受け入れるが、保管スペースの関係もあり、保存判定委員会で協議し長期保存の適否を判断する体制とする。

4. 保管

(1)文書：図書、雑誌類は自由閲覧可としているが、その他の資料の保管は管理下での閲覧としている。

(2)ひと：ひとり一冊のA4ファイルに挟み込み、資料館内の施錠可能なキャビネットに保管。

(3)もの：小型のものは資料館で保管。大型のものは当該製品（防水材料、施工機器・道具）の保有会社に保存依頼し、それらの情報管理だけを担当する「分散型保存」形態で管理。

5. 情報の公開

(1)文書：現在は資料館での閲覧のみであるが、将来はWeb上でのアクセスを可能にする予定。

(2)ひと：資料館で保管しているが、名前だけはWeb上に公開。

(3)もの：まだ作業は未着手。

③ 分室に書架設置します

第1弾として書架3基が3月20日午前中に到着します。組み立て後、昨年末に届いた土田恭義さん（元フジタ・故人）の資料と合わせて、整理が徐々に始まります。

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

一般社団法人 防水アーカイブズ資料館（略称・JWTAC）事務局長・森田喜晴
〒195-0053 東京都町田市能ヶ谷7-23-31-304 FAX: 042-812-3518
E-mail: jwtac@bousui-archives.jp <https://bousui-archives.jp/>